

境界性人格障害 (BPD) の入院診療録に基づく診断の 妥当性と信頼性に関する研究

藤内 栄太, 内田 直樹, 吉田 公輔,
衛藤 暢明, 西村 良二

福岡大学精神医学教室

要旨：境界性人格障害の長期予後については議論のあるところが多い。長期の後ろ向き研究を行なうためには信頼性のある後ろ向き診断方法を確立する必要がある。そこで本研究では、入院診療録を境界パーソナリティ診断面接質問紙 (Diagnostic Interview for Borderlines: 以下 DIB) によって後ろ向きに境界性人格障害を診断することの外的妥当性と評価者間信頼性を検討することを目的とした。

平成 12 年 4 月から平成 15 年 6 月までに福岡大学病院精神神経科に 8 週間以上入院しており、年齢が 18 歳～35 歳の患者を対象とした。これらの患者の入院診療録から評価した DIB と実際の面接による DIB の結果を比較した。その結果、入院診療録から採点した DIB は面接による DIB の結果と十分な一致 ($\kappa = 0.71$) を示した。このことより診療録を用いて DIB によって境界性人格障害を診断することの妥当性が示唆された。また、別々の評価者が独立に入院診療録から DIB を評価した場合にも十分な評価者間信頼性 ($\kappa = 0.72$) を示した。以上のことから複数の調査者が同様に診療録から DIB を評価できることが支持された。境界性人格障害の後ろ向き追跡研究の診断方法として診療録による DIB 診断を用いることの可能であることが示された。

キーワード：境界性人格障害, 後ろ向き診断, 診療録, 信頼性, 妥当性